

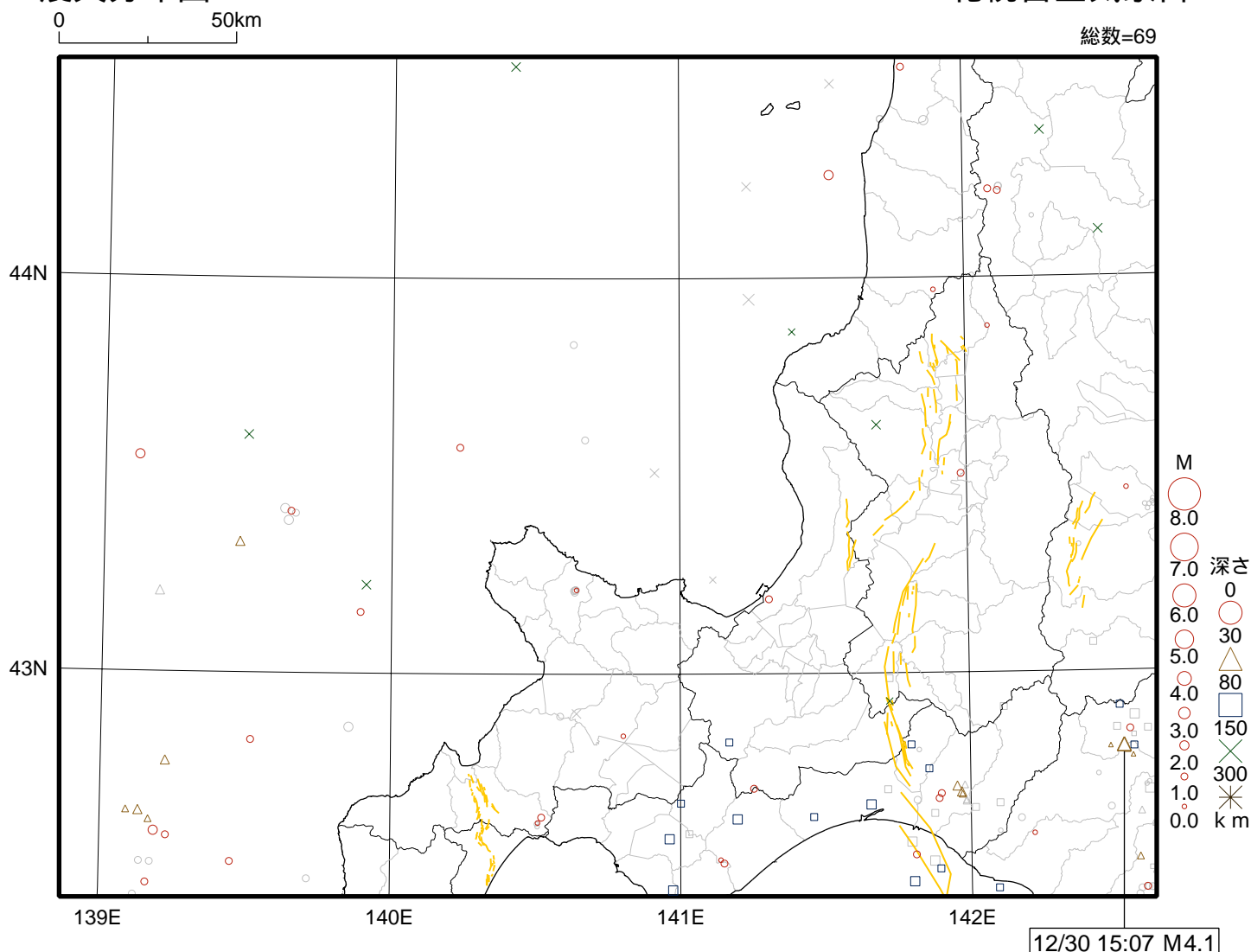
石狩・空知・後志地方の地震活動図

2023年12月1日～2023年12月31日

震央分布図

札幌管区気象台

総数=69



地震概況 (2023年12月)

この期間、石狩・空知・後志地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は3回(11月は2回)でした(「震度1以上を観測した地震の表」参照)。

27日07時53分、浦河沖の地震(M4.6、深さ70km、震央分布図の範囲外)により、石狩・空知・後志地方で震度2～1を観測しました。

28日18時15分、択捉島南東沖の地震(M6.6、深さ40km、震央分布図の範囲外)により、札幌市で震度1を観測しました。

(気象庁CMT解のセントロイドの深さは40km、気象庁震源カタログの深さは30kmになります。両者は計算手法が異なるため、深さに違い出ることがあります。)

30日15時07分、日高地方西部の地震(M4.1、深さ35km)により、千歳市で震度1を観測しました。

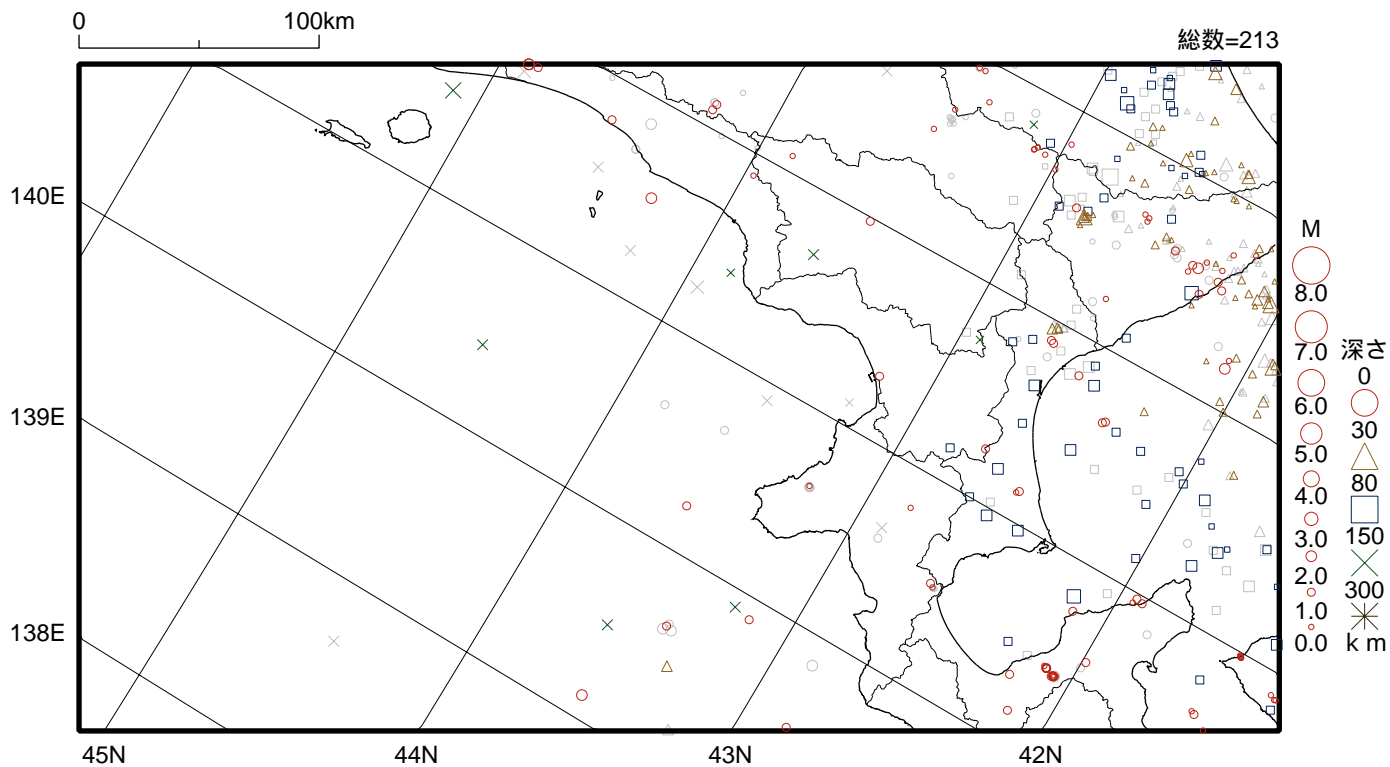
この活動図は、札幌管区気象台のホームページに掲載しています。

https://www.data.jma.go.jp/sapporo/jishin/earthquake_report.html

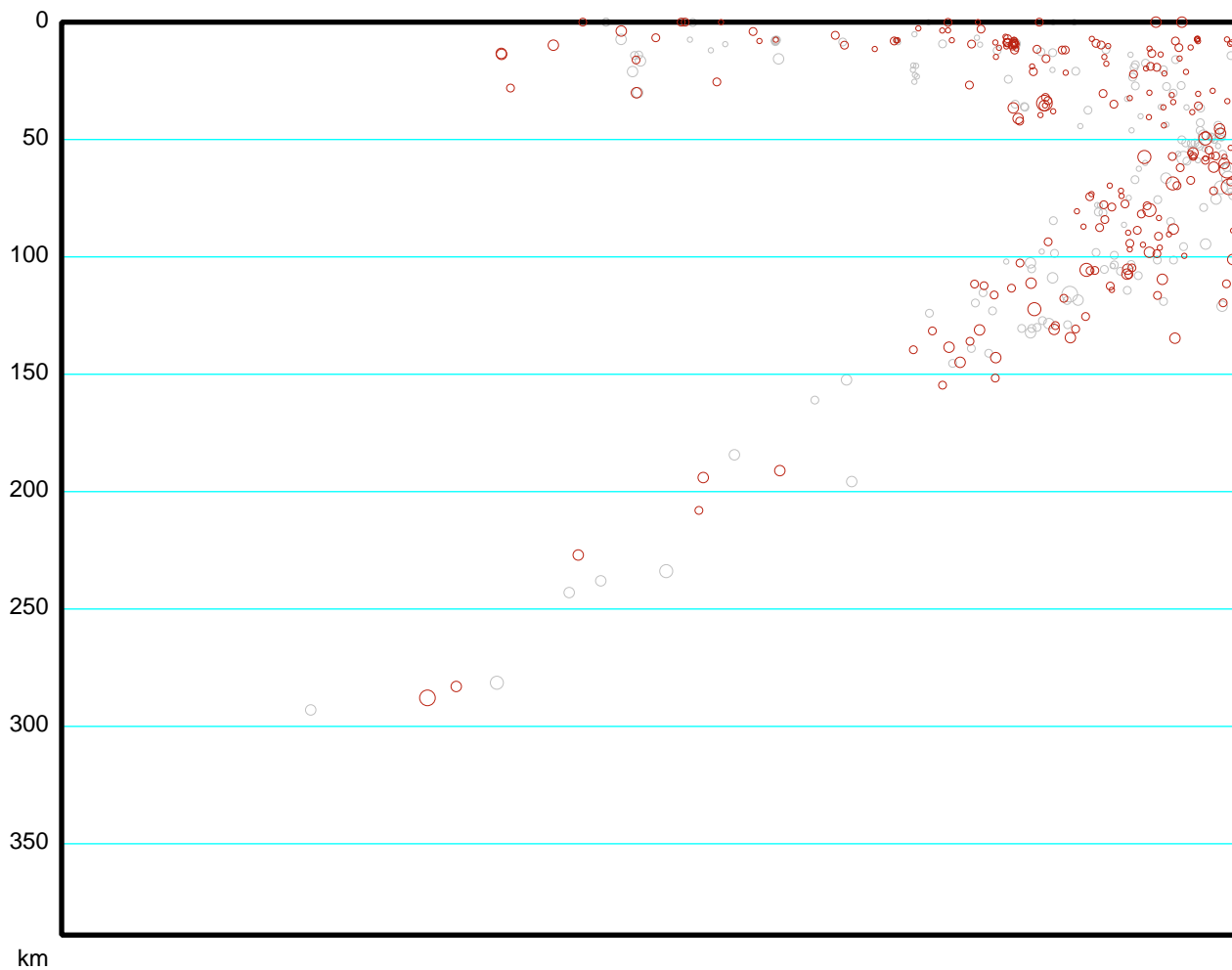
この資料に関する問い合わせ先 札幌管区気象台 地震火山課 TEL 011-611-6125

2023年12月1日 ~ 2023年12月31日

震央分布図



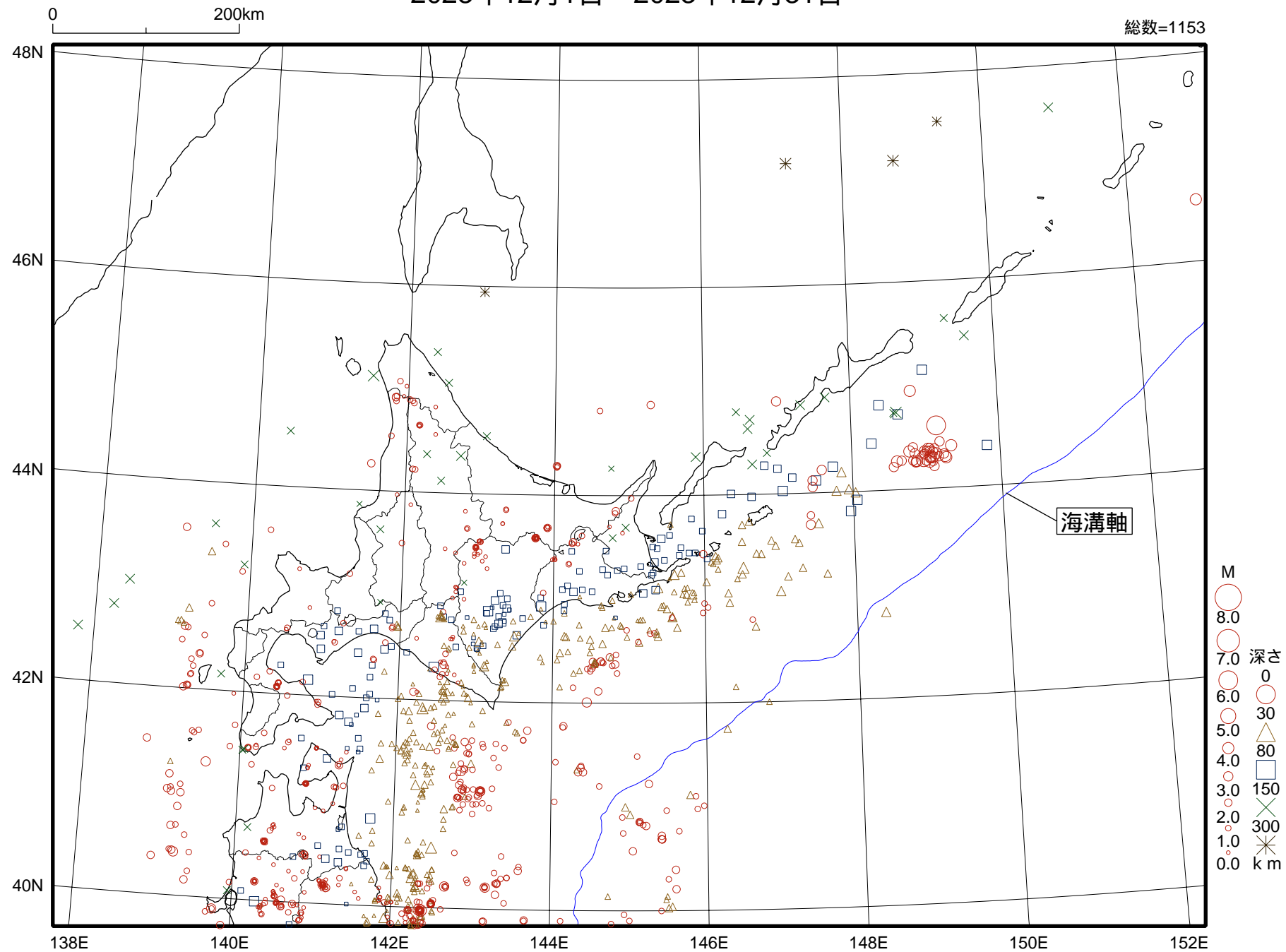
断面図



北海道の地震活動図

2023年12月1日 ~ 2023年12月31日

震央分布図



石狩・空知・後志地方で震度1以上を観測した地震の表（2023年12月）

年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯（N）	東経（E）	深さ（km）	規模（M）
2023年12月27日 石狩地方	07時53分 震度2	浦河沖 新篠津村第47線*（16） 江別市緑町*（18） 千歳市支笏湖温泉*（15） 石狩市聚富（11） 札幌北区新琴似*（12） 札幌南区川沿*（08） 札幌厚別区もみじ台*（13） 札幌清田区平岡*（10）	41°55.2 N	142°19.4 E	70 km	M4.6
空知地方	震度1	札幌北区太平*（15） 札幌東区元町*（21） 千歳市北栄（17） 千歳市若草*（19） 恵庭市京町*（21） 北広島市共栄*（18） 札幌中央区北2条（06） 札幌白石区北郷*（13） 札幌豊平区月寒東*（08） 札幌中央区北2条（06） 札幌白石区北郷*（13） 札幌西区琴似*（07） 札幌手稲区前田*（10） 江別市高砂町（12） 南幌町栄町*（19） 長沼町中央*（16）				
後志地方	震度1	夕張市若菜（11） 岩見沢市5条（12） 岩見沢市鳩が丘*（09） 岩見沢市栗沢町東本町*（13） 三笠市幸町*（14） 小樽市勝納町（13） 小樽市花園町*（05） 余市町浜中町*（06）				
2023年12月28日 石狩地方	18時15分 震度1	択捉島南東沖 札幌北区篠路*（09） 札幌手稲区前田*（07）	44°36.1 N	149°09.2 E	30 km	M6.6
2023年12月30日 石狩地方	15時07分 震度1	日高地方西部 千歳市北栄（07） 新千歳空港（06） 千歳市若草*（10） 千歳市支笏湖温泉*（06）	42°48.6 N	142°31.8 E	35 km	M4.1

*のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。
（ ）内の数値は0.1単位の詳細な震度（計測震度）の小数点を省略して表しています。

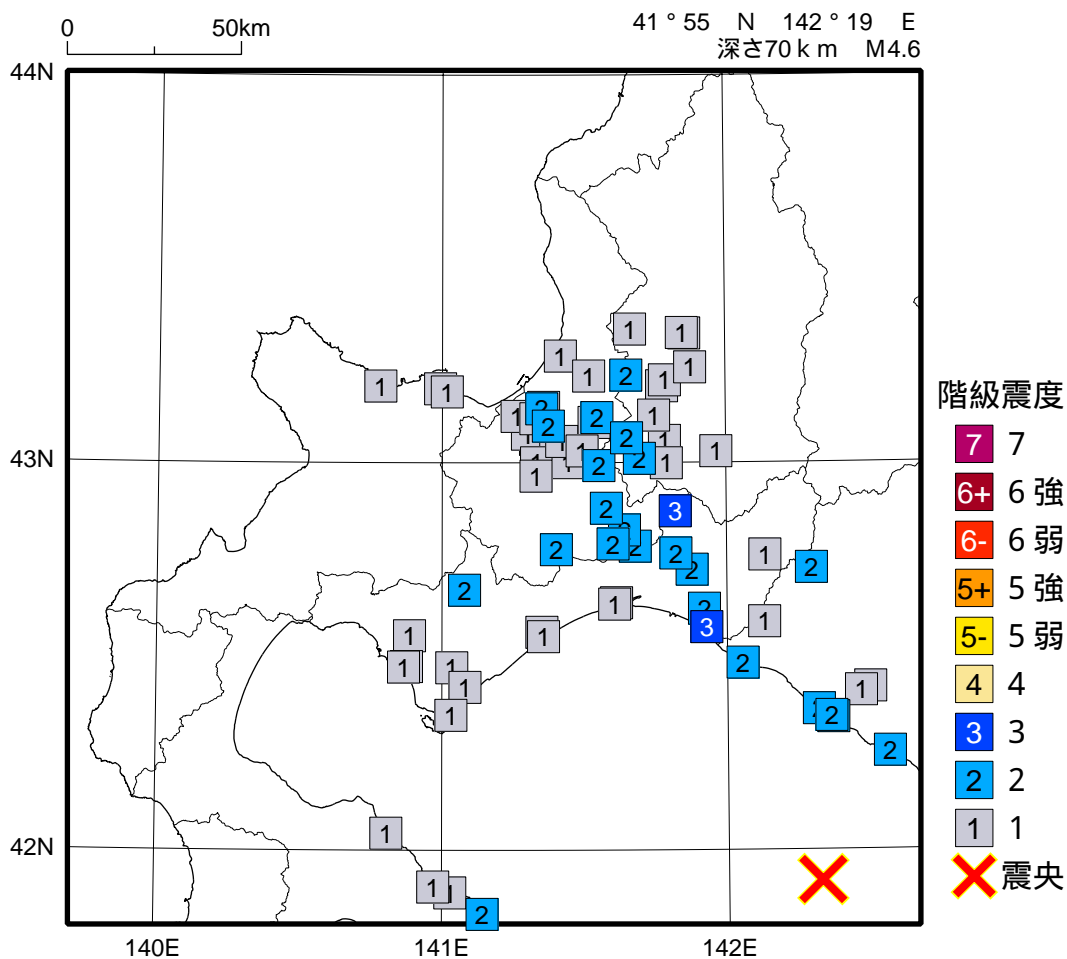
計測震度と震度階級の関係

計測震度	~0.4	0.5~1.4	1.5~2.4	2.5~3.4	3.5~4.4	4.5~4.9	5.0~5.4	5.5~5.9	6.0~6.4	6.5~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

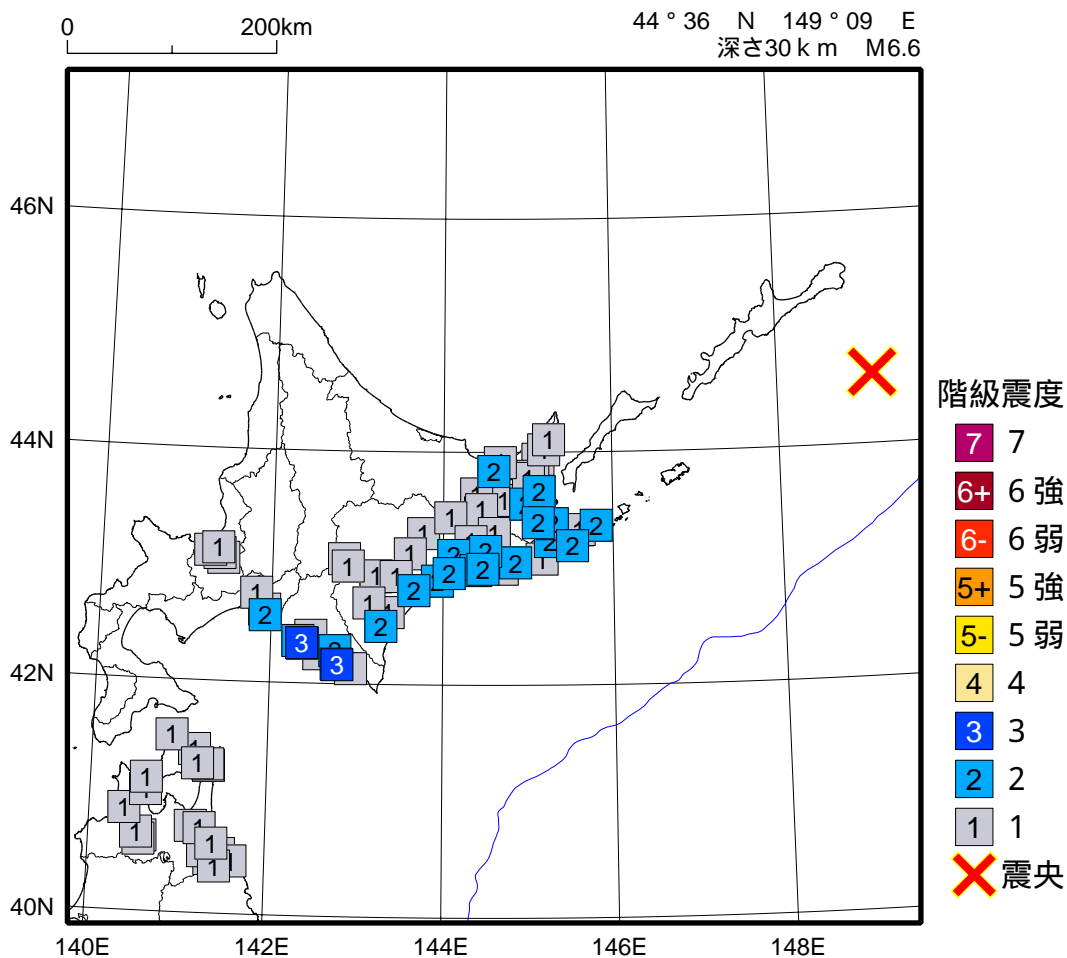
本資料の利用にあたって

- 本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- 図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
- 過去の地震と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
- 本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

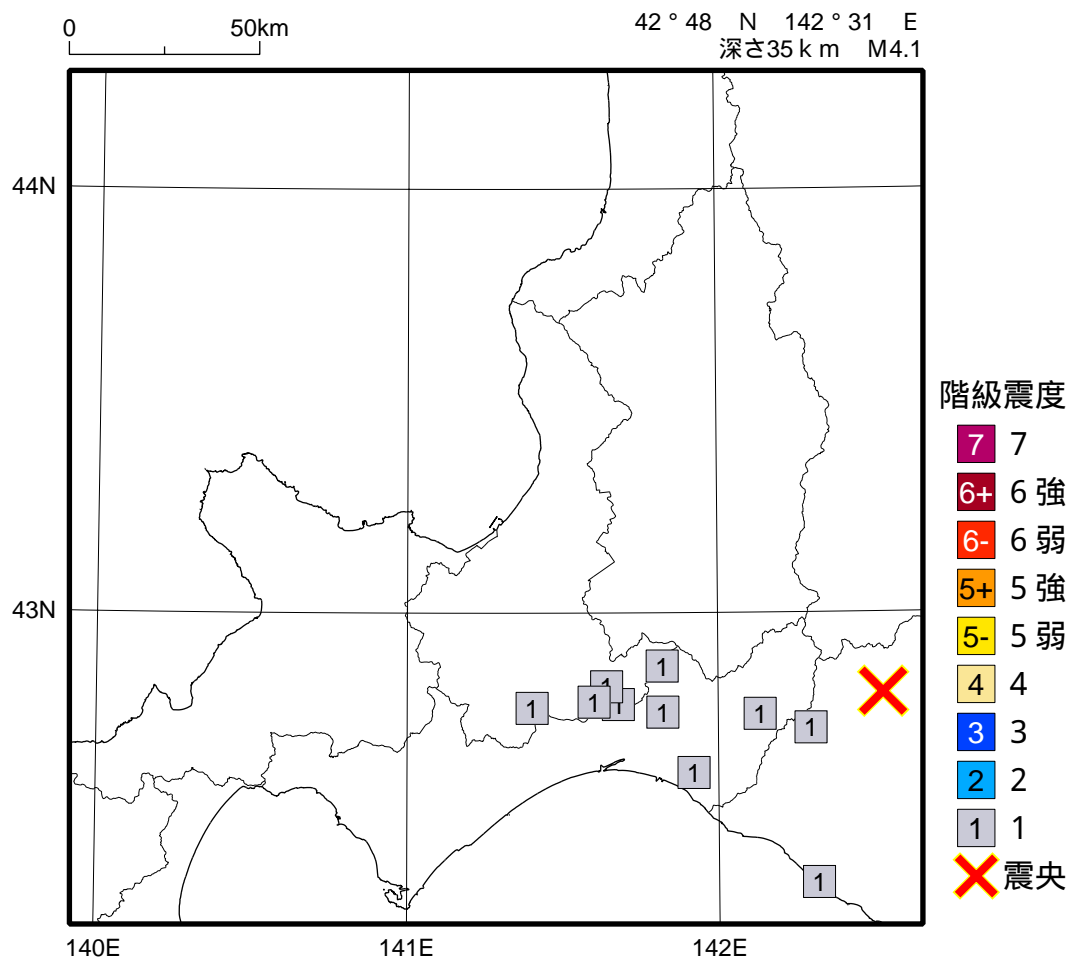
2023年12月27日07時53分 浦河沖の地震の震度分布図



2023年12月28日18時15分 択捉島南東沖の地震の震度分布図



2023年12月30日15時07分 日高地方西部の地震の震度分布図



【防災メモ】

～冬の地震・津波への備え～

発生が切迫している日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震・大津波をはじめ、冬に大地震が起こると、強い揺れや津波の被害に加え、雪や寒さによるリスクが増大します。怪我をしたり、命を失うことなど無いよう、冬の大地震や津波には以下の点に注意して備えて下さい。

1. 雪や凍結路に対する備え

屋根に多量の雪が積もっていると、地震の揺れにより、屋根から落雪したり、雪の重みで家屋が倒壊したりする恐れが大きくなります。落雪は人を巻き込む危険があるほか、避難路をふさぐ原因にもなりますので、十分に注意しましょう。また、山沿いや傾斜地の雪崩危険箇所では、雪崩にも注意してください。

冬季に地震・津波から避難する場合、路面の積雪や吹雪などにより時間がかかります。避難場所までの経路は事前に確認しておきましょう。路面が凍結していると滑りやすく、避難の移動中に転倒して負傷する恐れもあるため、路面状況をよく確認し慌てず避難しましょう。



2. 火災に対する備え

暖房を使っている冬場に地震が発生すると火災のリスクが高まります。転倒時の自動停止機能があっても、停電から復電すると再起動したり、損傷した電気配線から漏電したりして出火する「通電火災」に注意が必要です。暖房器具のそばには可燃物を置かないようにして下さい。避難の際は、ブレーカーを切ってガスの元栓を閉めるようにしましょう。地震を感知して自動的に電気を遮断する感震ブレーカーを設置することも有効です。



3. 寒さへの備え

地震で電気やガスが止まり、普段の暖房器具が使えなくなるかもしれません。こんな時にも使用できるポータブルの暖房器具があると安心です。また、避難時に低体温症にならないため、防寒着や防寒靴、毛布、カイロなども用意しておきましょう。冬季は身支度に時間がかかるので、これらは玄関などにまとめて用意しておくといいでしょう。



4. 雪についての情報

気象庁ホームページでは「今後の雪」の情報を提供しています。積雪の深さと降雪量の分布について、各地の24時間前からの状況と6時間先までの予想が地図上で確認できますので、避難路の確保等にご活用ください。

「今後の雪」 <https://www.jma.go.jp/bosai/snow/>

